

金融 経済の未来を決する頂上決戦の行方
仮想通貨の勝者は

中国
ウイグル弾圧の
意外な反対者

ペット
愛犬・愛猫を
フリーズドライ

ニュースウィーク日本版 定価480円
Newsweek

仮想通貨

ウォーズ

ビットコイン、リブラ、デジタル人民元……
三つ巴の覇権争いを制するのは誰か

2019
12・10

2019年12月10日発行 定価480円(税別) 発行所：株式会社ニューズウィーク・ジャパン



ももとは通訳やコンサルティングなどの面でモリンダと関わり、2007年にモリンダジャパン三代目社長に就任した黄木信氏。米国モリンダ社の副社長も兼任する。

Close Up ▶ モリンダ ジャパン 合同会社

CBD市場の未来を切り拓く、モリンダの挑戦。

■ 製品に関わる全ての人を
幸せにするという理念

一般に広く食われてきた果物よりも多くの栄養素を含み、欧米を中心に最近ではスーパーフードに続く大きなブームにもなった「スーパーフルーツ」。そんなスーパーフルーツブームの先駆けともいえるのが、南太平洋の島々に茂るノニであり、モリンダは1996年からタヒチアンノニジュースを販売するノニ製品のパイオニアだ。

「共同創業者の一人が、タヒチ島で暮らす人々が天からの贈り物」として重宝してきたノニと出会ったことが当社の始まり。そこから自社の研究施設や大学、病院などと連携したノニの基礎研究や成分研究を重ね、これまでに120報以上の論文に加え、多くの有効なヒト臨床試験の結果を公表してきました」

そう話すのは、米国での創業から3年後の1999年に誕生したモリンダジャパンを率いる黄木信社長。黄木氏はモリンダの企業理念を、「伝統と文化を重んじ、同時に人を大切にすること。人を大切にすることには、人の可能性を最大化するという意味もあります」と説明する。

黄木氏が「ここ」でいう「人」には、タヒチアンノニジュースをはじめとするモリンダ製品を使用・販売する人々だけでなく、原料となるノニを供給するタヒチの人々までが含まれる。同社ではタヒチ島に、ノニの洗浄から発酵、加工までを行える巨大な工場を設け、収穫したノニを運搬するための道路や船着き場までを整備。モリンダのパートナーでもある多くの島民たちが従事

するノニ産業は、同島の3大幹産業の一つにまで成長しているのだ。

現在までにタヒチアンノニジュースをはじめ、エイジングケア製品「テマナ」シリーズなど、ノニを原材料とする数々の製品をリリース。2004年には国連の外部団体であるICCOCから、地域経済に大きく貢献した企業に贈られる社会貢献に関する表彰も受けるなど、まさにタヒチ島のノニとともにこの20年余りを歩んできた。

そんなモリンダの製品ラインナップに今年11月に新たに加わったのが、いま全米で大きなブームとなっているCBD(カンナビノール)製品群だ。

■大きな可能性を秘めた CBD市場への挑戦

日本でも美容や健康への関心が高い人たちから大きな注目を集めているCBDは、麻に含まれる約100種の生理活性物質の総称であるカンナビノイドの一つであり、ファイトケミカルとも呼ばれる植物栄養素のこと。同じく麻に含まれる精神作用のあるTHC(テトラヒドロカンナビノール)が日本では麻薬及び向精神薬取締法で禁止されているのに対し、CBDは合法なうえ、ストレス過多になった神経を落ち着かせるリラクゼーション作用をはじめ、健康面でのさまざまな効果が期待されている。

「CBD市場は、北米だけでなく来年には700%の成長が見込まれ、日本内にして2100億円規模の市場になると予測されています。日本ではまだ抵抗があるかもしれませんが、人の健康や美容に寄与する大きな可能性を秘めている点がノニとよく似

ています」

モリンダ社は昨年、ナスダックに上場するニュー・エイジ・ビバレッジコーポレーションと合併、「米国の健康補助飲料分野をリードするニュー・エイジ・ビバレッジコーポレーションが持つ数々の製品や技術のなかでも、我々が最もわくわくしたのがCBDだったのです」と、黄木社長はモリンダがCBD市場に参入した背景を語る。

とはいえ、日本ではまだまだ大麻のイメージが強いうえ、アメリカで発売されるCBD製品には0.3%までのTHC含有が認められるのに対し、日本では一切の含有が認められていないなど、CBD市場への参入障壁は決して低くない。

「実際、大きな苦労がありました。当社では成熟した麻の茎を使ったTHCフリーの原材料を配合し、すでに当局から確認もとれています。11月にはそんなCBD成分を配合したスキンケアオイルやボディークリーム、ロールオンのスキンケアシリーズを、エン

ハンストシリーズ」として発売しましたが、来年以降にはノニとCBDをミックスした飲料なども発売したいと考えています」

■人々が抱える課題を製品を通じて解決する

eコマースや原料のBtoBをはじめとする多様な販売チャネルの構築、さらには医療分野への進出など、大きなシナジー効果が期待できる。そんなニュー・エイジ・ビバレッジコーポレーションとの合併によって、「モリンダは製品提供の企業から社会課題を解決する企業になりました」と黄木社長は言う。

「より多くの人々に健康と美と経済的な自由を実現していただくために、我々には多様な製品やプラットフォームをご用意する使命があります。ノニ製品だけに留まらない成長の機会を、今回CBDが与えてくれました。これまでにノニ製品で実現してきたのと同様に、サプライチェーンの安定や製品力の向上、CBDの効果や安全面などの啓発や教育、そして社内外の研究者と協働した研究開発やリサーチへの再投資を惜しまず、CBDの分野でもトップランナーを目指したいと考えています」

タヒチ島のノニと出会ってモリンダの歴史が動き出したのと同様に、CBDとの出会いがまた同社の新たな歴史をつくっていく。モリンダ ジャパンの創業から今年で20年目、次の20周年の節目を迎える頃には日本にもCBD製品が根付き、その先頭には同社の存在があるのかもしれない。黄木社長の力強い言葉からは、そんな未来が見えてくる。

美容や健康、医療まで活用が期待されるCBD

人間の体内には、免疫機能、運動機能、細胞機能などを薄りなく発揮するために、種々の身体調節システムが備わっています。その一つがECB(エンド・カンナビノイド システム)であり、全身の恒常性を保ち、健康維持のため、体内の交通整理(細胞間コミュニケーション)の制御を行っています。しかし、加齢やストレス、生活習慣等が原因でECBの働きが弱ると「カンナビノイド欠乏症」となり、あちこちでエラーが発生。これが体調不良及び種々の疾患の初発症状となります。こうしたECBの働きを、CBDを摂ることで取り戻せる可能性があります。CBDにはストレスなどを過剰に感じた神経を落ち着かせる作用もあり、世界保健機関(WHO)もてんかんの発作や不眠症、種々の痛み、皮膚炎、統合失調症、抜け毛、アルツハイマーなど100近くの疾患に関して、その有効性と安全性を評価しています。つまり、美容や健康、医療など多方面において、有効活用できる可能性の高い成分なのです。



11月に正式発売された、CBD配合のエンハンストシリーズの製品。右から、ロールオンのスキンケアシリーズ、ボディークリーム、スキンケアオイル。



昭和大学薬学部教授
佐藤 均氏

薬学博士 薬剤師。同大学において基礎医療薬学講座、薬物動態学部門を担う。著書に「カンナビノイドの科学(日本臨床カンナビノイド学会)」。